六月

高野長英記念館の風景

青　田

青田をわたる風がさわやかに感じられます　田んぼには溢れんばかりの水が引かれ　寿庵堰・茂井羅堰の恩恵を得ながら　無事田植えが終わったようです　最近　夜になると　そこここで蛙の合唱コンクールがおこなわれ　例年のこととはいえ　のどかさを　しみじみと感じています

ツツジ　1

ツツジ　2

後藤新平像とツツジ

サツキ　1

サツキ　2

サツキ　3

アヤメ　1

アヤメ　2

シダレカツラ

ギボウシ

ウメモドキ

チャノキ

シラン　1

シラン　2

ヤマボウシ

（撮影　5 月 10 日・23 日・28 日）

1830 年(天保元年)長英 27 歳。シーボルト事件以来、長崎を離れ、その年の 5 月 12 日に広島・尾道を出発し、大阪を経て、5 月 23 日京都着。その後、長英は藤林泰助の世話により木屋町(木屋町通)で開講・診療することとなります。今から 194 年前の 6 月のことでした。